

## イマドキ男子の「父親願望度」調査

20代・未婚男性のうち、「父親願望」を持っているのは40.5%。  
40～60代男性が20代・未婚の頃、父親になることは「自然なこと」だった。

若い女性のなかには、「将来子どもが欲しい」「母親になりたい」といった願望を抱く人も少なくない。一方、若い男性たちの間では、「父親になる」ということは、どのように捉えられているのだろうか。

今回、オウチーノ総研(株式会社オウチーノ/本社:東京都港区/代表:井端純一)は、20～29歳の未婚男性と30～69歳の男性(未婚・既婚問わず)計1,380名に『父親』に関するアンケート調査を行った。まず、20代・未婚男性に「あなたは将来、父親になりたいと思っていますか?」と聞いたところ、「なりたい」もしくは「どちらかというとなりたい」と回答したのは40.5%だった。一方、30～60代男性に、「あなたが20代・未婚の頃、父親になりたいと思っていましたか?」と聞いたところ、50～60代は過半数が「なりたい」もしくは「どちらかというとなりたい」と思っていたと回答した。また、父親願望がある、もしくはあった理由を問うと、20代・未婚と30代は「子どもが欲しいから」や「子どもが好きだから」といった回答が多かったのに対し、40～60代は「父親になることが自然だと思っていた」という回答が最も多かった。

### ■調査概要

有効回答	20～29歳の未婚男性と30～69歳の男性(未婚・既婚問わず)計1,380名
調査方法	インターネットによるアンケート調査
調査期間	2014年4月11日(金)～4月12日(土)

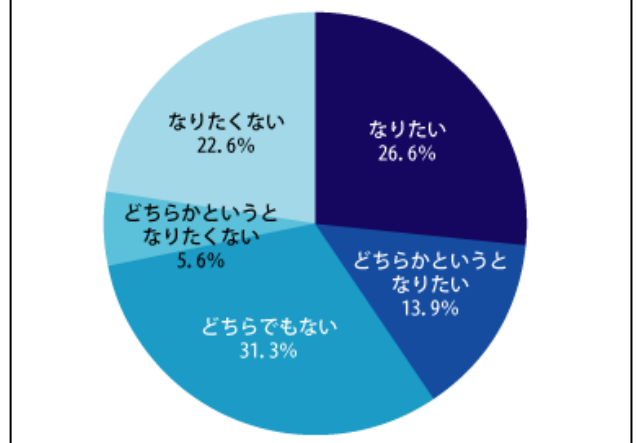
### 1. 20代・未婚男性のうち、「父親願望」を持っているのは40.5%

はじめに、20代・未婚男性に「あなたは、将来父親になりたいと思っていますか?」という質問をした。結果、「なりたい」と回答したのは26.6%、「どちらかというとなりたい」が13.9%、「どちらでもない」が31.3%、「どちらかというとなりたくない」が5.6%、「なりたくない」が22.6%だった。

「なりたい」「どちらかというとなりたい」と回答した人にその理由を聞いてみると、最も多かったのは「子どもが欲しいから」(24歳)だった。次に多かったのが「子どもが好きだから」(22歳)、その次に「子どもを育てたいから」(28歳)と「自然な事だから」(22歳)が続いた。

一方、「なりたくない」「どちらかというとなりたくない」と回答した人の理由として最も多かったのは、「父親の責任を全うできないから」(27歳)や「自信がないから」(28歳)など、「自分が父親になれると思えない」という意見だった。次に多かったのが「結婚するつもりがないから」(26歳)、そして三番目に多かったのが、「経済的に難しいから」(28歳)だった。

あなたは、父親になりたいと思っていますか?  
(20代・未婚)



「どちらでもない」と回答した人の理由は、「想像ができないから」(26歳)という意見が最も多く、次に「結婚するような相手もないから」(23歳)や「まだ結婚を考えたくないから」(27歳)など、「結婚していないから」「結婚したくないから」といった意見が続いた。

20代・未婚男性のうち、父親になりたいと思っているのは約4割で、残りの約6割は父親願望を持っていないことが分かった。

## 2. 40～60代男性が20代・未婚の頃、父親になることは「自然なこと」だった

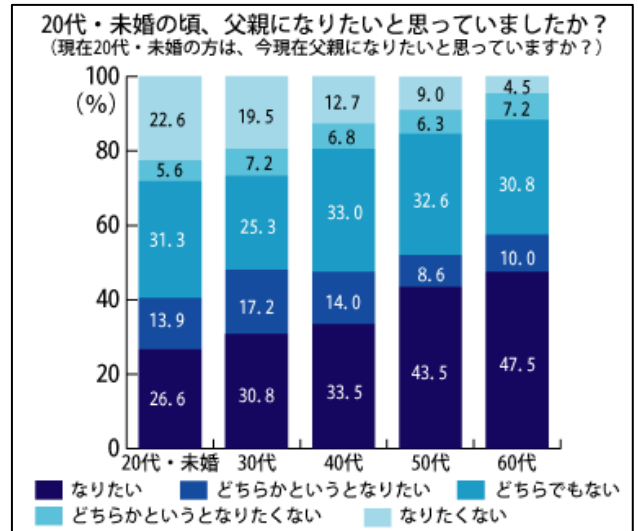
次に、30～60代男性に「あなたが20代・未婚の頃、父親になりたいと思っていましたか？」という質問をした。

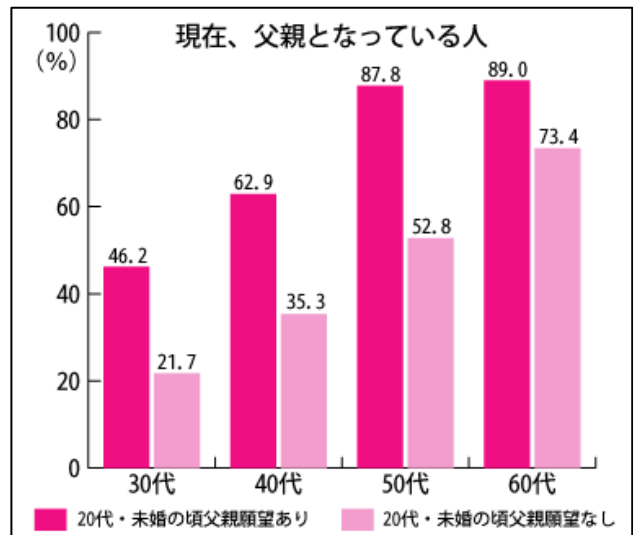
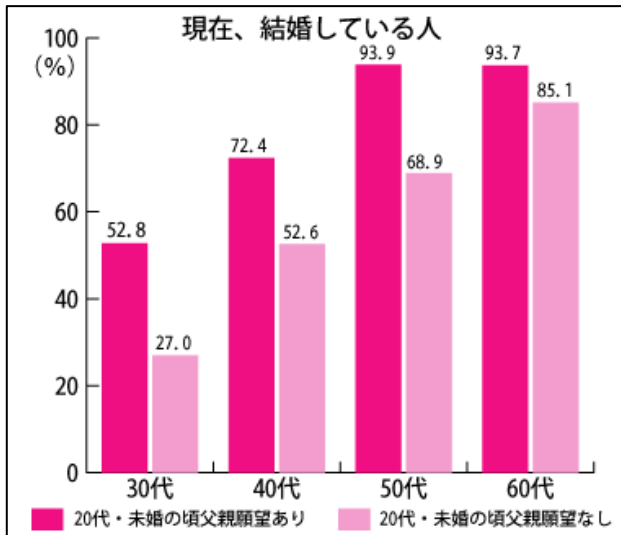
結果、「なりたい」もしくは「どちらかというとなりたい」と思っていたと回答したのは、30代が48.0%、40代が47.5%、50代が52.1%、60代は57.5%だった。現在の20代・未婚男性が40.5%だったのに対し、50代、60代は過半数が20代・未婚の頃、「父親になりたい」と思っていた」と回答した。

父親に「なりたい」「どちらかというとなりたい」と回答した20代・未婚男性と、20代・未婚の頃父親に「なりたい」「どちらかというとなりたい」と思っていたと回答した30代男性は、その理由として「子どもが欲しいから」「子どもが好きだから」を挙げた人が多かった。それに対して40～60代は「一般的にそうだったから」(43歳)、「漠然とはしていたが、子どもを作り家庭を持つことが当然だと思っていたから」(66歳)など、「結婚して父親になることが自然だと思っていた」という回答が最も多かった。

1990年時点での日本人の生涯未婚率(50歳時の未婚率)は男性が約5%、女性が約4%だった(※1)。それが20年後の2010年には男性が約20%、女性が約10%にまで上昇している。また、合計特殊出生率も、1992年時点では1.50だったのに対し、その20年後の2012年には1.41に減少(※2)。40～60代の男性が20代・未婚だった頃の日本に比べると、結婚することや父親になることがより一般的でなくなっている、という世相が今回のアンケート結果にも反映されていると言えよう。

ちなみに、20代・未婚の頃父親願望があった人／なかった人の現在をしてみると、既婚率に違いが見られた。20代・未婚の頃父親願望があった人の既婚率は、30代が52.8%、40代が72.4%、50代が93.9%、60代が93.7%だったのに対し、父親願望がなかった人の既婚率は、30代が27.0%、40代が52.6%、50代が68.9%、60代が85.1%だった。20代・未婚の頃父親願望があった人／なかった人では、30～50代の既婚率に約20～25%の開きがあった。さらに、20代・未婚の頃父親願望があった人で、現在父親になっているのは30代が46.2%、40代が62.9%、50代が87.8%、60代が89.0%であるのに対し、父親願望がなかった人で、現在父親になっているのは30代が21.7%、40代が35.3%、50代が52.8%、60代が73.4%と、こちらも既婚率と同じく差が生じる結果となった。





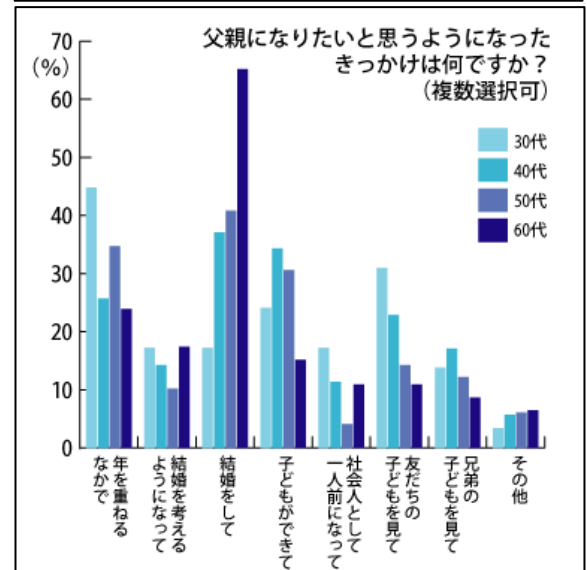
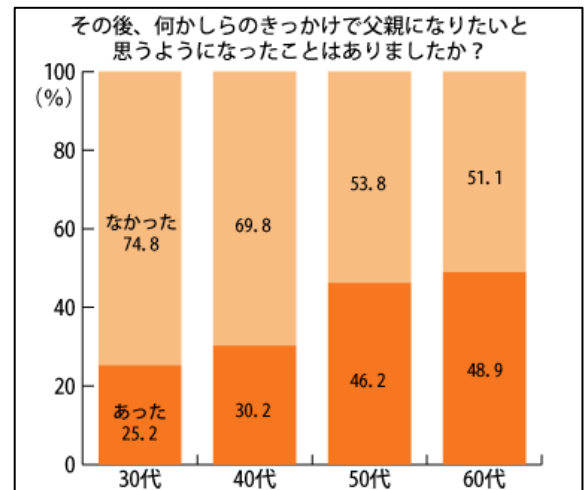
### 3. 20代・未婚の頃は父親願望がなかった人も、50～60代の約半数は「後に父親になりたいと思うようになった」と回答

最後に、20代・未婚の頃、父親に「なりたくない」「どちらかというとなりたくない」と思っていたと回答した30～60代男性に、後に何かしらのきっかけで父親になりたいと思うようになったか、聞いてみた。結果、「あった」と回答した人は30代が25.2%、40代が30.2%、50代が46.2%、60代が48.9%だった。

父親になりたいと思うようになったきっかけを聞くと、30代は「年を重ねるなかで」が最も多く、次に多かったのが「友だちの子どもを見て」だった。40代は「結婚をして」が最も多く、「子どもができて」が次に多かった。50～60代は「結婚をして」が最も多く、「年を重ねるなかで」が次に多かった。

今の30～60代が20代・未婚の頃、父親に「なりたくない」「どちらかというとなりたくない」と思っていた理由として全年代で最も多かったのが、「自分が父親になる自信がなかったから」(33歳)や「責任の重さに躊躇していたから」(50歳)といった意見だった。

50～60代は、20代・未婚の頃父親願望がなかった人でも、約半数が後に父親願望を持つようになったことが分かった。それに対して30代は父親願望を持つようになったと回答したのはわずか25.2%。50～60代の多くが「結婚をして父親になりたいと思うようになった」と回答していることから、30代の父親願望も、今後結婚などを通して変化していくことが考えられる。20代・未婚男性のなかには、父親になることに対して自信がなかったり、そもそも父親になることがイメージできない、という人も多かった。しかしそういった考えも、年を重ねたり、結婚といった人生の大きな決断をしていくなかで、変化していくものようだ。



※1: 国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料集(2014年版)

「表 6-23 性別生涯未婚率および初婚年齢(SMAM): 1920~2010年」

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2014.asp?chap=6&title1=%87Y%81D%8C%8B%8D%A5%81E%97%A3%8D%A5%81E%94z%8B%F4%8A%D6%8CW%95%CA%90I%8C%FB>

※2: 厚生労働省 平成24年(2012)人口動態統計

「合計特殊出生率について」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei12/index.html>

オウチーノ総研: <http://corporate.o-uccino.jp/research-o/>